

# ケアラー支援ガイドライン 作成事業の進捗等について

栃木県 保健福祉部 保健福祉課 地域福祉担当

# ケアラー支援ガイドライン 骨子案

項目	内容
はじめに	1 本ガイドラインの位置付け 2 読者の皆様へ 3 ガイドラインの使い方について
第1章 ケアラーとは	1 本ガイドラインにおけるケアラーの定義 2 ケアラーの多様な状況 3 日々のケアがケアラーにもたらす影響 4 ケアラーと関係の深い権利 5 国や全国の自治体の取組み 6 県内の取組み
第2章 なぜ今、ケアラー支援を 充実させる必要があるのか	1 ケアラー支援に関する現状 2 ケアラーを取り巻く課題の整理 3 連携して行う支援の必要性
第3章 ケアラー支援の全体概要	1 支援関係者の全体像 2 各機関の役割（※主な関係機関に期待される役割を含む） 3 ケアラー支援の流れ
第4章 ケアラーに寄り添って支援 を行うために、関係機関に 期待されるポイント	1 支援を必要とするケアラーに気付くためのポイント（※関係機関別に留意すべき事項を含む） 2 ケアラーへの声掛け・関わり方のポイント（※専門職に期待される役割、ケアラーの状況に応じた望ましい対応を含む） 3 本人や家族の状況把握、意思確認のポイント
第5章 連携して行う支援のポイン ト	1 連携の基本となる考え方（※本人同意、情報共有のルール含む） 2 アセスメント・多機関連携の必要性の判断 3 対応が望まれる機関・部署の明確化（※可能であれば、連携先フローチャート例を提示） 4 課題の共有・支援計画の検討 5 見守り・モニタリング
第6章 ケアラーの負担軽減につな がるサービス、関係機関の 窓口一覧	1 既存の公的サービスや制度一覧 2 相談窓口の一覧（国） 3 相談窓口の一覧（県） 4 相談窓口の一覧（各自治体）（※書き込み式） 5 民間支援団体等
第7章 ケアラー支援に当たっての Q&A	1 FAQ
第8章 県内市町や、全国他自治体 の好事例	1 県内自治体における好事例 2 県外自治体における好事例
第9章 考察	1 提言
第10章 アセスメントシート例	1 アセスメントシート（全年齢対象） 2 アセスメントシート（ヤングケアラー対象）
第11章 参考資料	1 参考資料（国） 2 参考資料（県）

# ヒアリング調査の実施状況①

## ○ヒアリングの実施時期

令和6(2024)年9月～10月頃

## ○ヒアリングの対象者と主な聞き取り内容

### ・ 支援関係機関等 【 3～4名×各1回（7グループ） 】

対象者	高齢、障害、児童、教育、医療、困窮、重層といった各分野における支援関係機関等の職員
内容	・各機関が行うケアラー支援の内容や効果 ・ケアラーの方に対応する際の課題や疑問 ・他の関係機関との連携の状況、好事例とそのポイント ・他の関係機関と連携する際の課題や疑問 ・支援を必要とするケアラーに気づくためのポイント等、アセスメント方法 ・ガイドラインに盛り込むべき項目等 ...など

### ・ 当事者等 【 1名×各1回（7名） 】

対象者	高齢者を支えるケアラー、障害児者を支えるケアラー、ヤングケアラー、医ケア児を支えるケアラー、難病患者を支えるケアラー、ひきこもり状態の方を支えるケアラー、依存症の方を支えるケアラー など
内容	・当事者の立場から見たケアラー支援の現状と課題 ・当事者として支援関係機関等に伝えたい思い(ポジティブ、ネガティブを含め) ・望ましい対応や支援 ...など

### ・ 有識者等 【 1名×各1回（3名） 】

対象者	学識経験者、ケアラー支援分野の有識者 など
内容	・ガイドラインの構成や内容の妥当性 ・支援関係機関等が抱える懸念、疑問に対する見解 ・ケアラー当事者からの意見に対する見解 ・参考となる事例、書籍、人物の紹介 ...など

# ヒアリング調査の実施状況②

## 主な意見とガイドラインへの反映（１）

### 【ケアラーの方と接する時の心がけについて】

- 信頼関係の構築
  - ・ 気にかけていることを伝えながら繋がり続ける
  - ・ 支援しようと焦らず、話をよく聞き、相手のＳＯＳを待つ（受容のプロセスは人によって異なる）
  - ・ ケアの内容に対して評価を付けない（否定されたら傷つく、肯定するとＳＯＳを出しにくくなる）
- 世帯や家族全体を捉える視点
  - ・ 家族それぞれの状況を把握するとともに、各人がどのような生活を送りたいのかに配慮する
  - ・ 使える制度やサービスについて、一緒に考える

### 【支援者によるアセスメントについて】

- チェック項目等の整理
  - ・ ケアラー当事者の主観（自身の現状をどう感じているか、今後どうしたいと思っているのか）を捉える項目を設ける
  - ・ 介入の基準等の考え方を整理する
- 支援者のスキルアップ
  - ・ 研修等を通じてスキルアップできるよう、聞き取りやアセスメントの視点を整理する
  - ・ シートの項目を埋めることが目的とならないように注意する（シートは例示とし、参考としてもらう程度にする）

### 【支援関係機関による連携について】

- 連携意識の醸成
  - ・ 各支援関係機関に期待される役割等を整理する（それぞれの専門性や知見を発揮し、支援者の孤立化を防ぐ）
  - ・ 事例別の連携スキーム等を例示する
- 社会資源等の整理
  - ・ 支援関係機関の機能と連絡先を一覧にして整理する
  - ・ ピアサポート団体やボランティア団体などの地域資源のうち、主なものを整理する

# ヒアリング調査の実施状況③

## 主な意見とガイドラインへの反映（２）

### 【環境等の整備について】

- ケアラー自身やその周囲の方が課題に気づくための環境づくり
  - ・ ポスターや動画の活用等による普及啓発の手法を例示する
  - ・ ケアラー手帳の配布及び活用方法等を例示する
- 関係機関の連携を円滑にするための仕組み
  - ・ 注意が必要なケースについて、円滑な情報共有を図るための仕組み（支援会議等）を例示する
  - ・ 円滑に連携を図るための組織編成等の工夫などを例示する

### 【その他】

- 読み手への配慮
  - ・ 専門用語や難解な言葉を多用せず、できるだけ簡易な言葉づかいで記載する
  - ・ 挿絵や図解を活用し、ひと目見てイメージできるように工夫する
- 参考となる情報等
  - ・ 参考となる文献やツールなどの掲載先を整理する

# とちまる地域共生社会SGにおける意見について

## とちまる地域共生社会スタディグループ(SG)の概要

- 県内市町における包括的支援体制の整備に向けた取組の促進や充実等を図ることを目的として、令和3(2021)年6月に設置
- 主な構成員は、県及び市町の福祉部局職員、社会福祉協議会などの関係機関職員

## 『令和6年度第2回とちまる地域共生社会推進研修会』

日時 : 令和6(2024)年10月2日(水) 13:30~16:40  
会場 : 栃木県総合文化センター 特別会議室  
内容 : 国による説明、県内自治体による実践発表、グループワーク(ヤングケアラー支援等について)  
参加 : 概要に記載の主な構成員に、SSWなどを加え、計79名が参加

### 【グループワークでの主な意見等】

- ・ 所属している自治体では、学校で支給されるタブレットから直接相談できる体制がある
- ・ ヤングケアラーは子ども食堂等の居場所につなぐことが必要であるが、誰が連れて行くのか、誰の言葉なら聞いてくれるのか、試行錯誤している
- ・ 自身をケアラー(権利の主体)であると認識していないケースが多い(周りの人の認識も薄い)
- ・ ヤングケアラーの事例は、課題が複合化していることが多く、複数機関が関わるが、どの部署が主導するのか、課によって支援の方針が異なる場合もあり、難しさを感じる
- ・ ヤングケアラーは子どもに焦点がいくが、世帯の課題であり、本当に必要なのは世帯の支援
- ・ 家族の世話は家族がする、家の恥を外に出さないといった社会全体の意識を変えるよう啓発が必要

# (参考) 文献調査の実施状況

## 【調査対象とした文献等】

- ・「Q&Aでわかる専門職のための認知症の家族等介護者支援ガイドブック」(H29年度)
- ・「市町村・地域包括支援センターによる家族介護者支援マニュアル～介護者本人の人生の支援～」(H29年度)
- ・「家族介護者支援取組ポイント」(R2年度)
- ・「ヤングケアラーの早期発見・ニーズ把握に関するガイドライン(案)」(R元年度)
- ・「多機関・多職種連携によるヤングケアラー支援マニュアル」(R3年度)
- ・「家族介護者つどいの場 立ち上げ・運営マニュアル」(R4年度)
- ・「重層的支援体制整備事業に係る自治体事務マニュアル」(R2年度)
- ・「重層的支援体制整備事業に関わることになった人に向けたガイドブック」(R2年度)
- ・「重層的支援体制整備事業を検討することになった人、始めてみたけどなんだかうまくいかない人にむけたガイドブック」(R4年度)
- ・「包括的な支援体制の整備が市町村の努力義務になっているなんて知らなかったという人へのガイドブック」(R5年度)
- ・「企業における仕事と介護の両立支援実践マニュアル」(H27年度)
- ・「仕事と介護の両立支援に関する経営者向けガイドライン」(R5年度)

ほか、過去の栃木県ケアラー支援推進協議会や地域共生社会シンポジウムの資料、関係書籍等を研究



ケアラーの方と接する際のポイント、アセスメントのポイント、多職種連携のポイント等を、ガイドラインに反映予定